

未来
創造
物語

THE STORY

ORIGINALITY, VISION, and SPIRIT

●フィギュアやドールなどを製造・販売し、国内外に15店舗を構える模型造形メーカーの株式会社ボックス。ファンを育て成長し続ける会社が今年、創業50年を迎える。これまでの歩みを振り返り、重田英行代表取締役社長に、会社として大切にしてきたことを語ってもらった。

株式会社 ボックス

ホビーは宝、心の支え。ホビーを通じて夢を実現。

ボックス創業以来、ファンに愛されて半世紀!

7坪から始まった夢

株式会社ボックスの始まりは1972年、重田英行社長が、現在専務を務める妻と一緒に京都市上京区の新町今出川で開いた7坪のプラモデル販売店だった。「日本一の模型店になりたい」という重田社長の大きな夢を詰め込んだ小さな店は、さまざまな挑戦を重ね、数多くのヒット商品を生み出す企業へと成長している。



ボックス1号店。わずか7坪の創業店舗で、24歳と21歳の若い店主2人

幼い頃、空を飛べたいという夢があった重田社長。プラモデルの航空機に魅了され、設計図を見て模型を作ること喜びを感じていた。高校を出て18歳で呉服問屋に勤めたが、妻と出会い、模型屋になる夢を応援してもらったことで背中を押され、24歳で創業。「商品を仕入れるお金がなく、趣味で集めたプラモデルの箱を並べて、売れたら模型問屋に仕入れに走る。そんな綱渡りの日々。きっと世界で一番貧乏な模型店だった」と、重田社長は当時を振り返る。

プラモデルであふれる空間は学校帰りの子どもたちに人気を集めたが、高価なため一向に売れ上げは上がらない。プラスチック模型は、ヨーロッパなどでは当時から一定の社会的地位にある人が楽しむ高尚な趣味の位置にあった一方、



現在の本社外観。模型店「ボックス ホビースクエア京都」を併設

企画・制作＝京都新聞COM



2019年12月の「ドールズ・パーティー42」。毎年2回、東京ビッグサイトを会場に世界最大級のドールイベントを開催

日本では「子どものおもちゃ」という評価だったのだ。だが、プラモデルを作る面白さを身をもって知る重田社長は、「日本でもきっと価値が高まる」と信じていた。

成長のキーはオリジナル商品



嵯峨嵐山にたたずむ「天使の里・霞中庵」はドールたちの生まれ里

ボックス (VOLKS) という店名は、ドイツ語で「国民のため」という意味で、「ホビーをみんなのために」との思いが込められている。子どもたちに愛される本格的な模型店はやがて「夢が詰まったお店」とうわさになり、店舗数を拡大。プラモデルの通信販売も始め、少しずつ軌道に乗っていった。会社を成長させるきっかけとなったのは、オリジナル商品の開発だ。顧客たちが怪獣や特撮ヒーローなどのキャラクターを独自に制作する流れに着目し、「著作権者の利用許可を得て商品化しよう」と一念発起。大手映画会社との契約にこぎ着けたのを足掛かりに、約3000もの著名な作品の商品化を実現させた。この勢に乗って長岡京市に本社ビルを建設し、企画部門を設立。新工場ヴァージナルアートや造形村も次々に開設、一気通貫のシステムを構築した。



同社の主力商品ともいえるドールとフィギュアを掛け合わせた「ドルフィー」の開発は、「女の子もお店に来てほしい」という専務のつぶやきからスタートした。人形商品の企画や造形、生産販売は未知の世界。試行錯誤の末に生まれた「ドルフィー」は、物語性があり、顔のパーツから服装まで自由にカスタマイズできる点が人気で、爆発的にヒットした。そして、オーナーが妻「ドールズ・パーティー」を開催すると、ドールを連れた女性たちであふれた。

さらに、ファンの声に耳を傾ける中で、「自分の心の中からやってきたもう一人の自分」をコンセプトとする新商品「スーパードルフィー」が誕生。嵯峨野に開設したドルフィーの生まれ里「天使の里・霞中庵」は、館内の世界観にもこだわり、「もう1人の自分」であるドールと夢のような時間を過ごすことができる特別な空間だ。

京都という世界観から発信

「ものを売っているのではなく、夢の実現のお手伝い」。それがボックスの理念だ。商品と顧客との関係性を見てき



ホビースクエア京都の自社製飛行機プラモデル「SWS」コーナー。知的好奇心の泉



スーパードルフィー「シャルロット」と「リゼロッテ」

た重田社長は、ホビーがただのおもちゃではないと実感する。「ドルフィーとの出会いを機に、新しい自分に出会う。ドルフィーやプラモデルに理想の姿を見だし、時に励まされエネルギーをもらう。日常生活では満たされなくても、ボックスに行く元気になる。ホビーは心の中にある、その人を支えてくれるものです。」

斬新かつしなやかに、社会のニーズに応えながら進化を遂げてきたボックスだが、道のりは決して平坦ではなかった。「千三つ」という千の企画があっても成功するのは二つか三つ。失敗ばかり」と重田社長。それでも、需要に対し供給と価値観を高めている会社であることにこだわってきた。「お客さまがホビーに、ボックスに何を求めているのか、ホビーを通じてお客さまをどう幸せにできるのか」。重田社長と社員たちは日々、自分たちに問い掛けている。

「私たちは京都で生まれ、育ててもらい、京都から世界中へ発信している。歴史ある場所にしか存在しない世界観の中で商品が生まれる。だから私たちはここ京都で、500年続く企業を目指してお客さまや地域社会にとって宝物のような会社になりたい」。重田社長は、京都への特別な思いを語る。「そして社会には希望があり、どんなにすてきなシチュエーションが待っているかわからないということも、ホビーを通じて発信できればうれしいですね。たった7坪の店が、50年の時を経て、世界に名を知られる企業へと成長を遂げる。商品だけでなく、重田夫妻が紡いできた物語そのものが、人々の心を躍らせる宝物だ。」



重田 英行代表取締役社長

広さ、品ぞろえ共に関西で最大級のホビー専門店!
ボックス ホビースクエア京都は夢の空間!!
創業の地・京都市内に年中無休で営業中! 西大路通り沿い、駐車場完備!

1F 鉄道模型コーナー
Nゲージ、HOゲージはもちろん、周辺商品やプラレールも充実! 店内に広がる巨大レイアウトは圧巻!!

2F ホビーコーナー
長年にわたるボックスの主力「ファイブスター物語」メカをプラキットで作ろう! 「IMS」新作、続々リリース中!!
女の子プラキット「ブロックス・フィオレ」、スケールモデル「SWS」、ツール&マテリアルなどボックスオリジナル商品が買えるのはボックスだけ!!
ガンプラもスケールモデルも続々入荷。お客様が制作された模型作品を多数展示!! コンテストも随時開催!!

ボックス50年史: 社史編纂お客様参加企画!
貴方のお宝資料をお貸しください!

懐かしのボックス製品、チラシ等を探しています

おかげさまで株式会社ボックスは2022年12月で50周年を迎えます。「あなたの夢は私たちの夢」、この想いを胸に、1972年の創業以来ボックスは半世紀にわたりお客様の元へホビーをお届けしてまいりました。この度、50周年を記念し、ボックス創業の歴史を振り返る特別な冊子を制作する事になりました。これまで私達を支えてくださった皆様へ贈る一冊の制作に、是非ご協力いただけましたら幸いです。採用された方には冊子と記念品を進呈いたします。

まずはウェブまたはお電話にてご連絡を!
募集期間: 2022年4月22日(金)～8月31日(水)

ウェブ
ボックスウェブサイト内「ボックス50年史」の専用フォームよりご連絡ください。

電話
ボックス ホビー企画室「50年史担当」宛
075-325-1171
平日 11:00～18:00(土日祝を除く)

ボックス ホビースクエア京都
075-325-1175
[11:00～20:00 年中無休]
〒600-8862 京都市下京区七条御所内/中町60 1F-2F
JR「西大路駅」下車。南口改札を左に出ると西大路通りを北向きに徒歩約7分。近隣目標は「若一神社」。さらに西大路通りを北へ約100m。
是非お近くのボックスへ! ウェブ通販も充実!!
●大阪ショールーム [11:00～20:00 年中無休]
〒556-0005 大阪府大阪市浪速区日本橋4-9-18
TEL: 06-6634-8155
●神戸ショールーム [平日11:00～20:00 土日祝10:00～20:00 定休日なし]
〒650-0021 兵庫県神戸市中央区三宮町1-9-1
センタープラザ3F-311
TEL: 078-334-7717
●ホビー天国オンラインストア
<https://hobby.ec.volks.co.jp/>